

はじめ新報

Vol. 33

編集・発行

船田はじめ事務所

〒320-0047

栃木県宇都宮市一の沢1-2-6

TEL 028-666-8735

FAX 028-666-8736

URL <http://www.funada.org/>

政治に信頼を 経済に活力をとりもどす。

はじめに

後援会の皆様には如何お過ごしでしょうか。今年も猛暑である上に、災害発生の恐れを常に警戒しながらの日本列島です。政治不信、国際秩序の乱れも払拭出来ていません。政治の役割がとて高まっていることを自覚して、引き続き活動に全力で頑張つて参ります。

信頼される
政治を目指して

昨年末以来、政治資金パーティ券還流不記載を巡る、いわゆる「裏金問題」に端

を発した政治不信は、政治家の責任明確化や資金の透明化を目指した政治資金規正法の改正にもかかわらず、まだまだ払拭されていません。その影響を受けて、岸田内閣の支持率も低迷を続けています。

その原因は政治家がきちんと説明責任を果たしていないことですが、さらに言えば国民の感覚とのズレが大きくなっていることだと考えます。特権意識を振り払い、本当の「庶民感覚」を政治家1人ひとりが取り戻さない限り、政治不信を払拭することは出来ないと思います。厳しいガバナンス・コードの設定を求めます。

厳しくなる
安全保障環境

ロシアのウクライナ侵略から2年半が経ちました。イスラエルのガザ侵攻から1年が経とうとしています。未だ解決の糸口すら見出せていません。アジア地域においても、力による現状変更を目論む勢力が存在し続けています。これに対抗すべき国連の安保理も力を出しきれず、かつて「世界の警察」と言われたアメリカも、今や内向き志向になりつつあります。

東西冷戦後の国際秩序は曲がり角に来ており、各国が主権という錦の御旗を振り回すようになっています。これでは世界情勢が益々不安定になってしまいます。わがままな国に「節度を持って」と言っても通用するはずはなく、やはり拒否権の制限や常任理事国制度の改革により、国連安保理の機能を回復・強化するほかはありません。日本外交の全勢力を傾けて取り組むべき課題です。

金融引き締めと
為替相場

日本銀行は7月31日の政策決定会合において、政策金利を0・1%から0・25%に引き上げるとともに、国債引受け量の圧縮を決めました。長年にわたる金融緩和と政策を改め、金利ある世界に転換する決定です。今後「適温経済」に移行するための道筋が見えて来たことは、評価すべきです。一方、アメリカとの金利差が縮まるため、一定の円高は予測されていたものの、アメリカの景気後退懸念と

人を捌くことの
難しさ

私はこの10年間、1年おきに裁判官弾劾裁判所の裁判長を経験してきました。非行を犯した裁判官が辞めない時、唯一罷免できるのが弾劾裁判所です。国会議員が裁判員と検察役の訴追委員になります。憲法に定められた三権分立の一辺を構成しています。

今回は裁判長として、異例の裁判を経験しました。被訴人(被告)は刑事罰を受けていませんが、SNSで犯罪被害者家族に精神的苦痛を与え、家族から訴えられたケースです。過去の例はほとんど刑事罰を受けていますので、証拠調べや尋問はそれをなぞらえば良かったのですが、今回は裁判手続きを一から積み上げ、16回の公判を1年4ヶ月にわたって開きました。

さらに憲法が保障する表現の自由が、裁判官であっても認められるかどうか、SNSによる被害を裁くことが出来るかが、大きな争点となりました。大分白髪も増えてしまいました。が、ギリギリの選択で罷免することが出来てホッとしています。人を裁くことの難しさと、憲法が保障する権利の重さを、あらためて知ることになりました。

食の安全と
食品ロス対策

私は長いこと自民党消費者問題調査会長を務めて

LRTを
県央地域発展の礎に

昨年8月に全線新線で開業した宇都宮ライントライン(LRT)は、予想を上回るペースで乗客数が増え、7月はじめに400万人を超えました。次世代の公共交通のモデルとして、全国から注目される都市のツールとなりました。しかし真価発揮はこれからです。

まずは今回開通したJR駅東から西側に延伸して、中心商店街を活性化しなければなりません。さらに沿線開発のためのマスタープランを整備しなければなりません。車社会との共存、貨物輸送との共存も解決すべき課題です。東武宇都宮線との乗り入れやJR日光線、真岡鉄道との接続など、これまで夢だった話を現実の話しに移行していかねばなりません。栃木県央地域発展の起爆剤にして参ります。

マイオピニオン

能登半島で失われたつづめるもの

正月に震度7の激震に襲われた能登半島では、犠牲者は232名に達し、21名が安否不明となっている。犠牲者のうち災害関連死は14名である。冷たい雨や雪に見舞われ、しばしば発生する余震の恐怖に耐えながら、1万6千名を超える方々が避難生活を強いられている。現地では懸命な救援活動が展開され、救援物資も少しずつ届きはじめているが、まだまだ日常生活とは程遠い状況が続く。

人命の安全確保と被災者の生活再建が目の下の急務だが、それが成し遂げられたのちは、能登地方の豊かな伝統や文化を再建することも重要になってくる。様々なアイテムの中でも、能登といえば「輪島塗」がまず挙げられる。国内の漆塗りの有数の産地は、紀州漆器、会津漆器、越前漆器、そして輪島塗を含めた山中漆器の4ヶ所である。

それぞれに特徴のある漆塗りだが、特に国の重要無形文化財である輪島塗は、縄文時代から存続していたという長い歴史があると同時に、「地の粉」と呼ばれる珪藻土を漆の樹液に混ぜて下地を強化する独特の技法を持つ。また江戸時代には「沈金」や「蒔絵」の技法を取り入れ、精緻で美しい輪島塗りに完成させていったと言われている。

さらに輪島には「石川県立輪島漆芸技術研究所」という有名な塗り師養成の施設があり、器や工芸品の技術者がかりでなく、文化財修復を手がける人々の研修の場所にもなっている。全国の神社・仏閣の建物や仏像、御輿や工芸品の修復には、この研修所を修了した人たちが活躍している。

このように文化的に重要な輪島塗が、今回の地震により存続の危機に直面していると言っても過言ではない。大震災が発生した朝市周辺は輪島塗の製作販売の拠点と聞いている。製作のための道具も被害を受けたに違いない。塗り師の皆さんの多くも被災され、避難生活を送っているだろう。

第一義的な救援活動が終えたのちは、被災地の復興という段階を迎えるが、その際の一つの柱になるのが輪島塗の文化としての、また産業としての復興ではないだろうか。この時まで我々は支援の輪を継続しなければならぬと思う。

2024年1月22日



活動報告

今年で49回目となる宮まつり。好天に恵まれた8月3、4日、沿道に集まった大勢の観客から参加者に拍手や歓声が送られました。

親子対面の翌日、私の地元一の沢地区を町内神輿が巡回しました。炎天下にも拘わらず勇ましい掛け声と共に大人も子供も元気一杯楽しい一日を過ごしました。



はじめ倶楽部女性の会研修旅行が実施されました。今回はクルーズ船にて昼食をとり楽しい一日となりました。参加者の一人は「いつも楽しい催しを企画して頂き毎回出席するのを楽しみにしています。」と話してくれました。



栃木県ゲートボール選手権大会が開催されました。県内各地から精鋭が参加する最大のイベントです。私も始球式に臨みました。



毎年恒例のうつのみや花火大会。始まる前に実行委員会の皆さんを激励しました。このイベントは市民にも定着し私も強力にサポートして参ります。



青年の会主催ボウリング大会では子供たちを含めて150名以上の方々にご参加頂きました。5年ぶりに盛大に開催されました。



20年来続く中央地区「家族ふれあいの夕べ」が今年も中央小学校で開催されました。地区住民の親睦を深めるために始まったこの催しも今ではすっかり中央地区の夏の風物詩になりました。今年も大勢の住民の方が参加しました。



8月24日、25日の2日間開かれた、かみのかわサンフラワー祭に参加しました。今年はメインの畑が1〜2分咲きのままでしたが、それでもひまわりの美しさ、力強さに感動しました。



1月に発生した小林製薬による紅麹案件を受け、5月に私が会長を務める党消費者問題調査会と厚生労働部会は共同会議を開き、健康被害の再発防止策を取りまとめ政府に提言することとなりました。



消費者問題調査会は食品ロス削減プロジェクトチームとして7月24日、神奈川県にある公益社団法人フードバンクかながわなどを訪れ、食品保管の冷蔵施設や食品廃棄物による飼料製造工場などを視察しました。



8月15日終戦の日。護国神社で「栃木県戦没者追悼式」が開かれました。多くの参加者が戦没者を悼むとともに平和への誓いを新たにしました。



消費者庁未来創造戦略本部、徳島県視察。後藤田知事と面会。



令和6年の新春の集いが3月2日に開催されました。今年も大勢の方々にお越し頂き、出席者全員の今年一年のご健勝を念じると共に後援会の益々の結束を図る大変有意義な集いとなりました。

ご質問、募集に関するお問い合わせは「船田はじめ事務所」までお願い致します

【船田はじめ事務所】

●住所 宇都宮市一の沢1-2-6 ●TEL 028-666-8735 ●FAX 028-666-8736
●URL <http://www.funada.org> ●e-mail fnd-info@funada.org



後援会入会申込